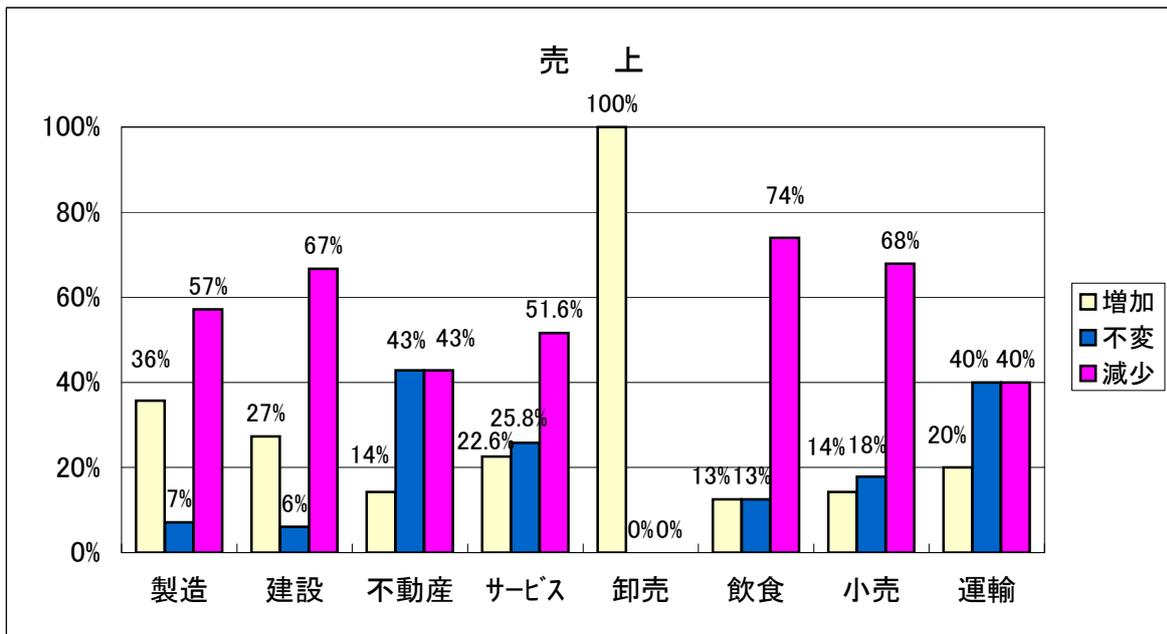


調査1 今年1月～6月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と及び今年下期の見通しと比較して表示してある。

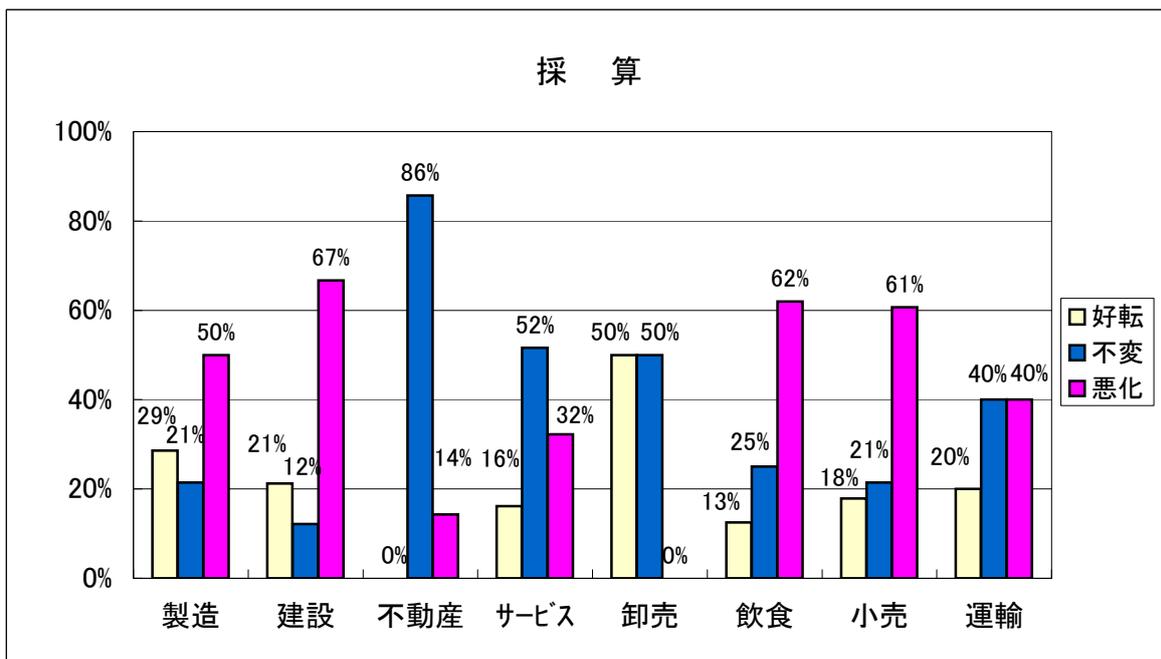
①売上について

卸売が「増加」100%となっているものの、それ以外の業種では「減少」傾向が高い。特に、「減少」と回答が多かった業種は飲食業(74%)、小売業(68%)、建設業(67%)、製造業(57%)となっており、全業種全体で見ても半数以上が「減少」と回答し、依然として厳しい状況が続いている。



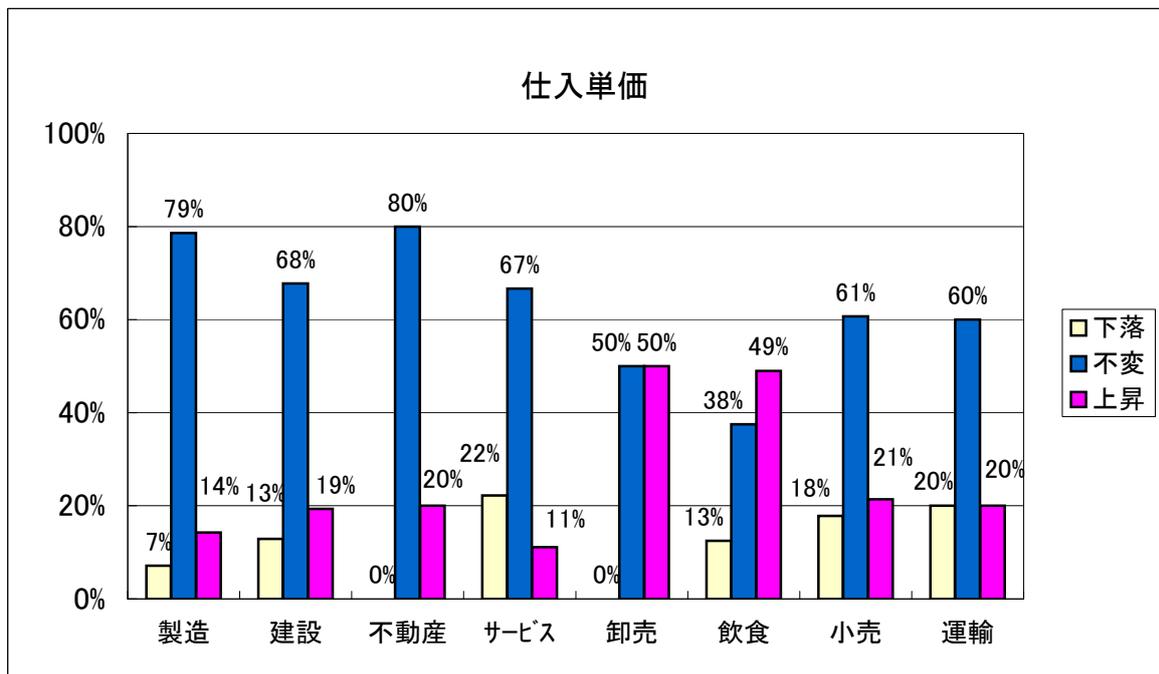
②採算について

採算で見ると、卸売が「好転」50%、「不変」50%と改善されてきている。「悪化」の傾向が大きいのは、建設業(67%)、飲食業(63%)、小売業(61%)となっている。



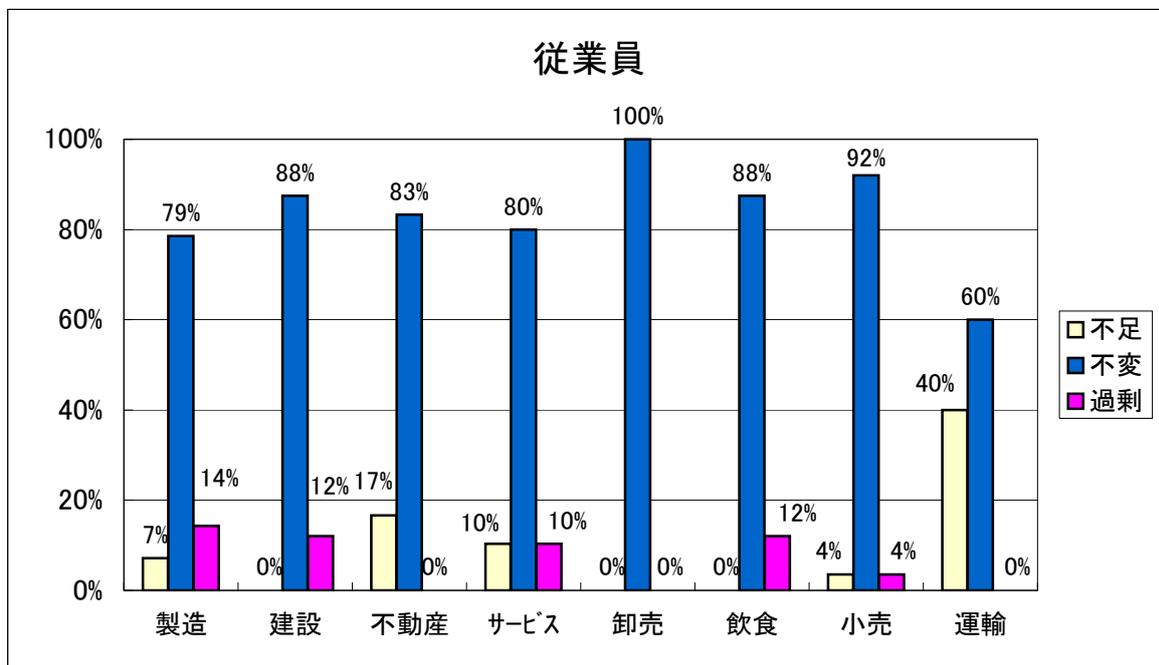
③仕入単価について

仕入単価は昨年同時期と「不変」と回答した企業が全体の約62%で、「上昇」傾向が強いのは卸売業(50%)、飲食業(49%)であった。

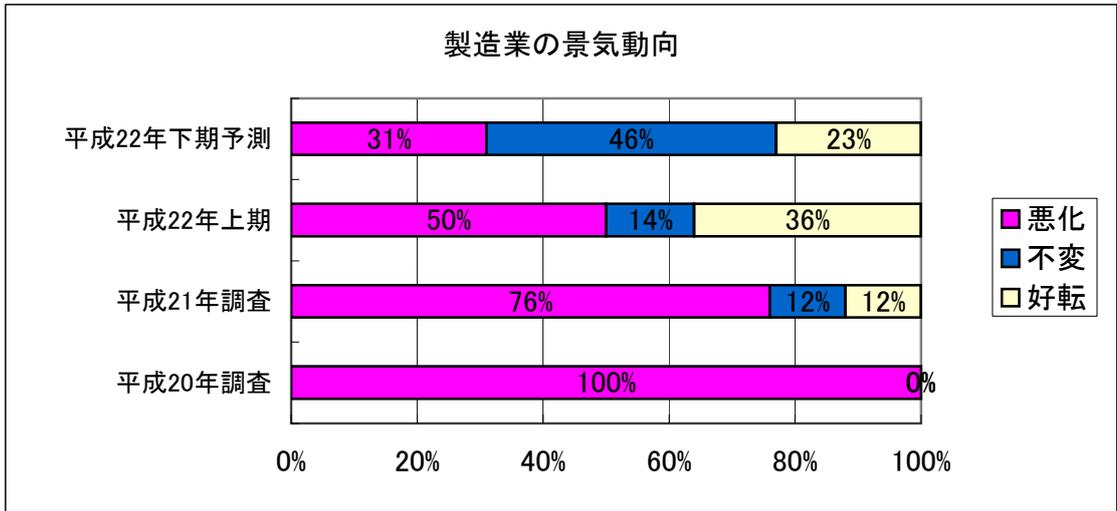


④従業員について

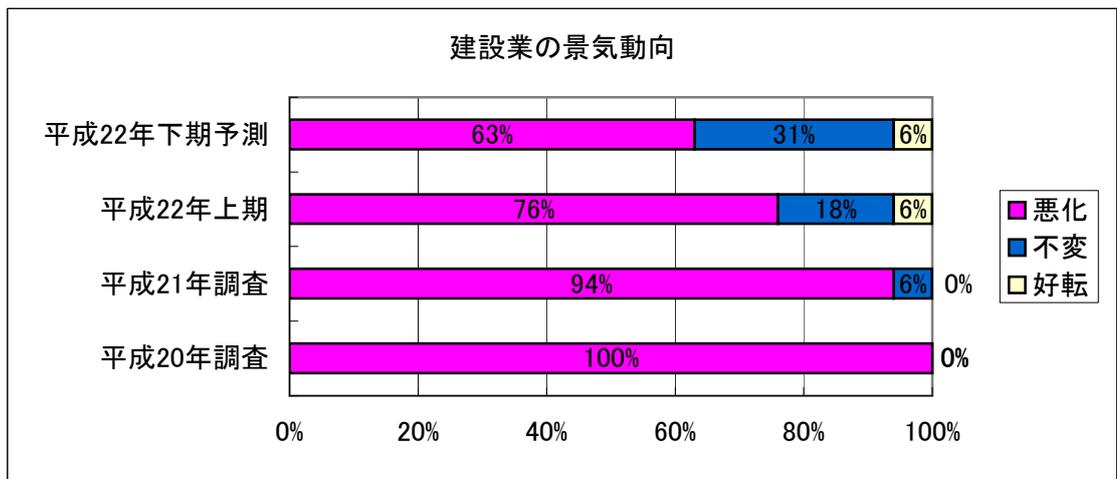
全体で見ると約84%が「不変」と回答し、「不足」しているのが運輸業(40%)、不動産業(17%)、製造業(7%)となっている。



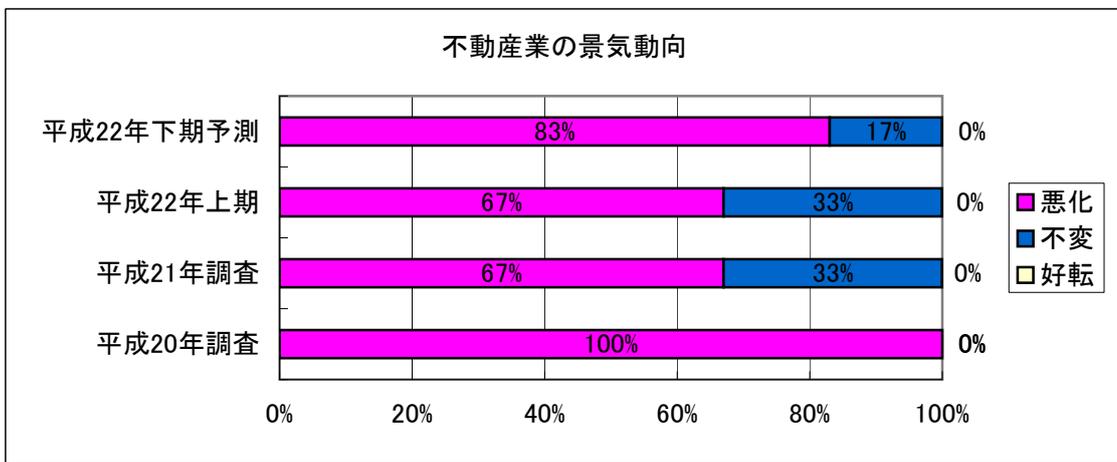
⑤業界の景気動向について



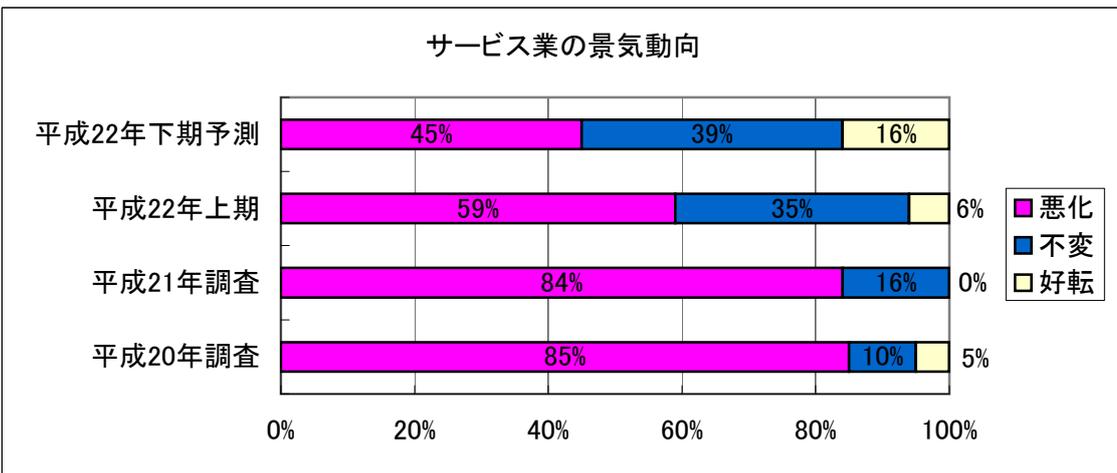
■製造業
今年上期は36%の企業が「好転」と回答し、下期に至っては「好転」が23%となっており徐々に景気回復の兆しが見られる。



■建設業
前回、前々回には好転の回答がなかったが、今年上期について「好転」と回答した企業が6%あった。住宅リフォーム業、防災設備工事が若干回復している状況である。

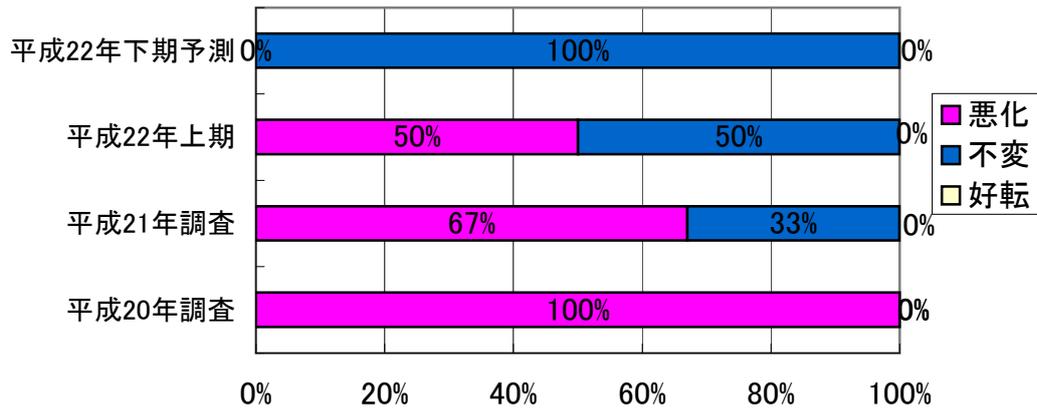


■不動産業
景気については前回調査と同様の結果になっている。今年下期の見通しでは83%の企業が「悪化」と回答し、業界としては非常に厳しい状況が続いている。



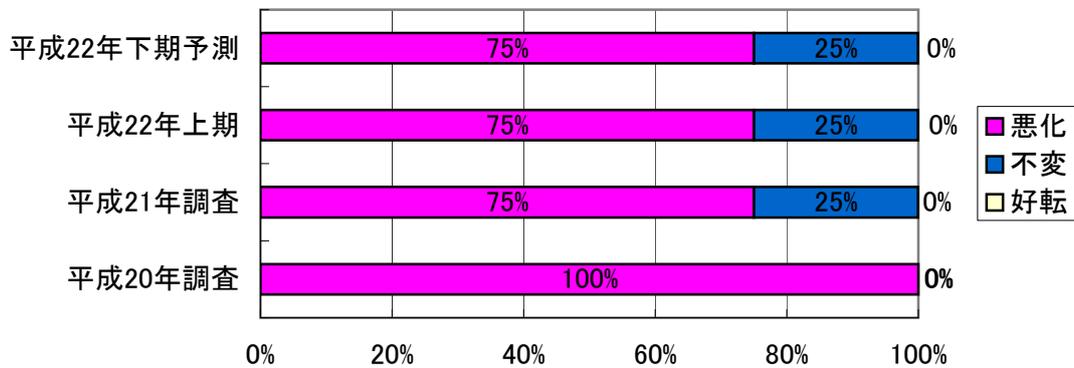
■サービス業
今年上期では「好転」が6%、「不変」が35%としており、昨年に比べて上向き傾向になっている。下期の見通しについても「好転」が16%となっている。

卸売業の景気動向



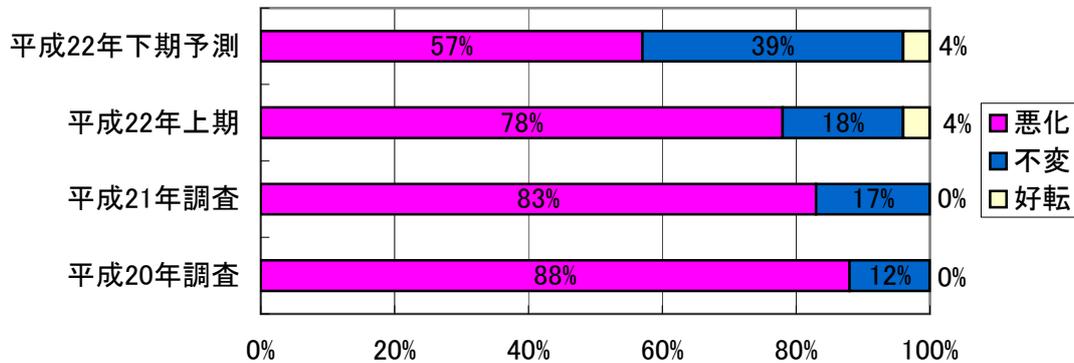
(卸売業)
 上期は「悪化」「不変」がそれぞれ50%となっている。売上は増加しているが業界の景気は「好転」していないと見られる。下期は現状の状態が続くとみている。

飲食業の景気動向



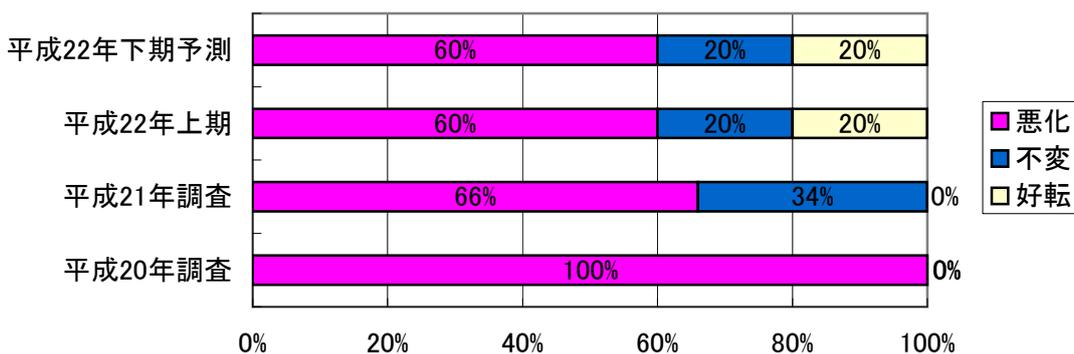
(飲食業)
 全業種をみても最も景気の低迷が続いているのが飲食業で、75%の事業所が「悪化」と回答している。外食を控える傾向が見られる。

小売業の景気動向



(小売業)
 上期「好転」が4%となっているものの、「不変」が18%で「悪化」が78%と個人消費の低迷により、依然として厳しい景気状況が続いている。

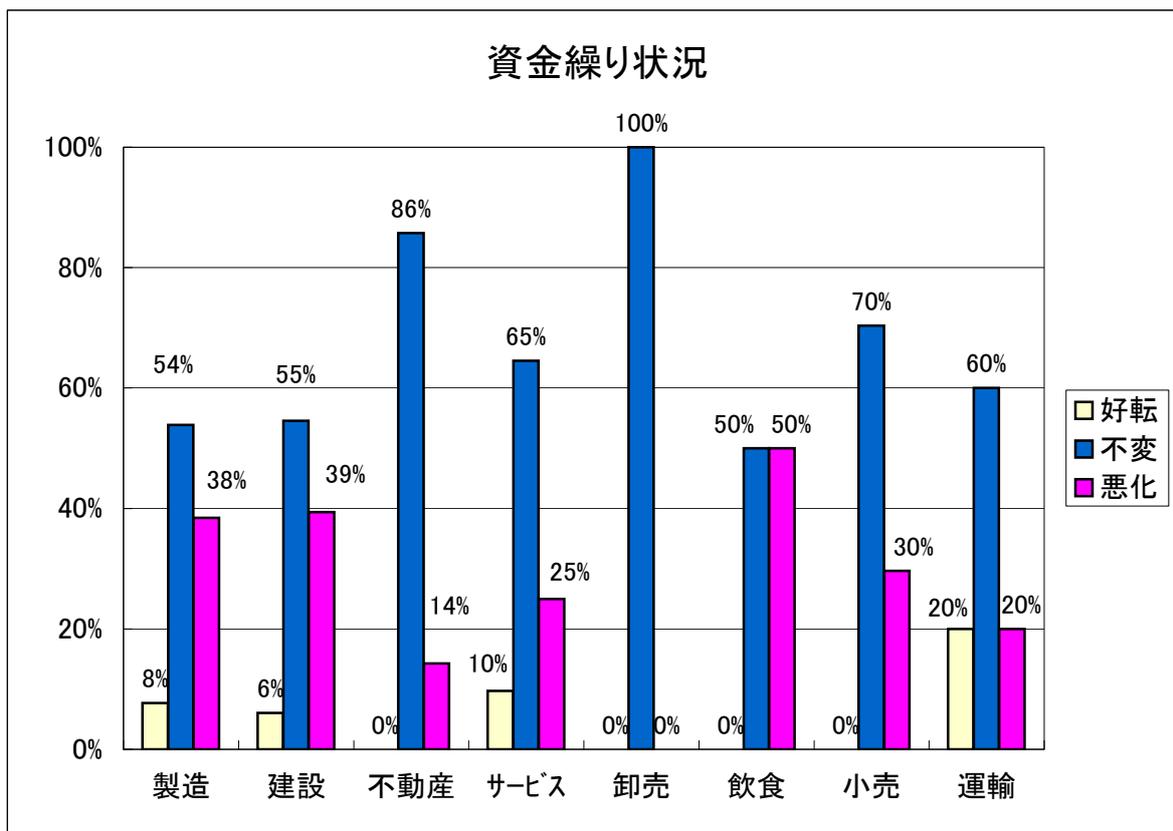
運輸業の景気動向



(運輸業)
 上期「好転」20%と前回調査に比べると景気状況は上向き傾向になっている。下期の見通しについても20%が「好転」と回答している。

⑥資金繰りについて

全体で見ると約68%の企業が「不変」と回答している。「悪化」が著しい業種は飲食(50%)、建設(39%)、製造(38%)と続いている。



⑦金融機関の融資状況について

「緩やか」と回答があったのが、サービス業(17%)、小売業(7%)、建設業(3%)で、あとは「不変」と回答した企業が全体で56%ともっとも多かった。「厳しい」と回答した業種では、卸売業(50%)、飲食(24%)、小売(19%)、建設(19%)となっている。

